

13  
3237  
3



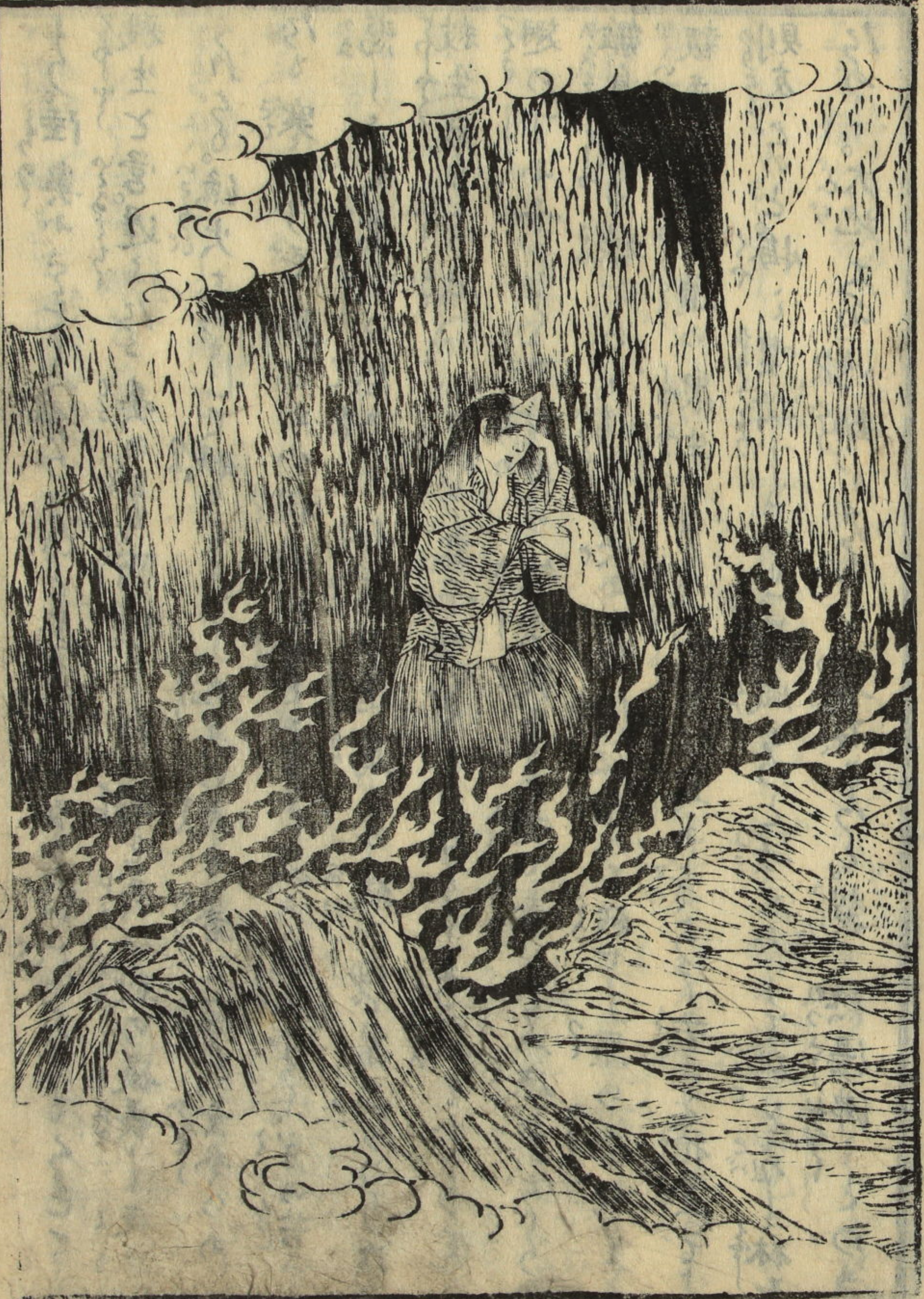


仲夏の時をもちて。諸人禪定する夏なり。山の姿仏の形小似しるゆゑ。膝を一の越といひ。腰腹を二の越といひ。肩を三の越といひ。頭を四の越といひ。頂上仏面と五の越といふ。市の谷へ行ゆ小鍾大鍾とて。さうりつとてのむ所あり。險阻多しやべし。初踏沼太郎の笈をせむ錫杖とほき鉦とあじて。險道とのわり。山中の靈地とあまねく順拜し。追分より地獄谷のつらて。山路の街の敷おろくへ悪趣の險路。八大地獄おろく十六の別所ありて。一百二十六地獄あり。劍の山より。岩石をぶぶらちて。劍をうゑあさるがごとく。血の池といふ。水の色赤く朱とこまて流せり。如し。則友人ちがふ一見し。面前ある地獄の形勢。それと見てもおそれぬ人のろろへ。鬼よりもなにおそりしうれづ。歎息し。此山小て願ば再まるとくまき。亡者あめめと。若る人ぐい

のふこりやとて。不思議の塔といひ。五輪の傍小。笈をあけて鉦打るじ。一心不乱小念仏とて。居る折しも。背後の方いとかさるる。色ありて。往事渺茫とて。總て夢小似し。舊遊零落とて。半泉小。故き。間諜の人のあし。まじしと。叫めあり。たそやと願ふ。岩石をぶぶらちて。わのうた所小。頭蓬を乱し。色青ざり。瘦おとる男。ぶが衣。着て鶴の羽。腰蓑をたれ。おそれ杖小をぐりて。かげらひのどく。たそと居る。則友怪に。これい何人か。おこるや。んと尋ね。さう。や。や。新則友。どの。けん。え。れ。ゆる。某ハ善知安方。おてゆ。や。な。て。ひ。き。對面。する。といひ。て。め。ぐ。と。み。く。則友より。く。え。れ。び。つ。く。お。と。り。へ。て。古の形。そ。も。お。び。へ。ぬ。ど。ま。う。れ。其人。あ。れ。ハ。大。小。撃。た。ん。お。ん。又。妹。錦。本。そ。り。小。陸。奥。小。下。り。あり。と。風。の。便。お。け。つ。る。が。其。頃。ハ。合。戦。小。い。と。ま。あ。く。故。君。亡。む。ひ。後。ハ。か。く。一。所

不住の才とあれ。音信さてもせざりし。何ぞ此山におりても。うづりま  
 姿ありとりふ。安方袖をあげて涙をぬぐひ去り。へのの毛いとざり。ぞ  
 わりて如月尼并小年。即良門の非望の企を諫言し。切腹し。事  
 の始終をつぶさず語り。何ぞぞおん身某おる。代を。年を即君小尋のひ  
 悪意をさす。うづりむ。諫言し。むりれ。此事と。の。人。む。う。り。ふ  
 ろ。ま。で。の。わ。れ。出。つ。る。り。と。り。の。あ。を。則。友。は。て。且。其。忠。義。の。あ。り。死。と。感。  
 扱。世。お。あ。れ。人。と。あ。り。し。う。そ。悲。涙。小。袖。を。ま。ち。り。け。り。安。方。を。さ。り。て。い。ひ  
 ける。古。郷。小。残。ぞ。妻。錦。木。一。子。千。代。童。等。其。が。酸。く。さ。を。い。づ。り。生。死  
 の。わ。ど。も。た。り。あ。り。む。と。疑。て。さ。ぞ。嘆。悲。て。ら。と。ら。ん。お。ん。身。陸。奥。小。折。下  
 その。外。が。濱。の。住。家。と。な。づ。て。某。が。諫。死。の。子。細。さ。か。り。あ。折。下。の  
 香。花。一。遍。の。念。仏。と。も。手。向。う。と。あ。せ。と。さ。れ。し。さ。り。あ。づ。た。ら。あ。り

謹みて。若疑とりやゆらん。あひ出たりのり。世の今般のき。某  
 が。外。つ。けて。木。曾。の。麻。衣。を。あ。り。と。も。か。さ。と。も。見。よ。し。と。あ。み。せ  
 ら。ん。て。届。む。り。れ。う。と。そ。雨。露。小。巾。と。も。旅。衣。の。片。袖。を。引。ち。き。り。指。さ。ひ  
 き。り。て。血。を。出。し。一。首。の。歌。を。か。き。つ。け。流。し。涙。を。さ。へ。て。あ。み。と。則。友  
 受。取。を。れ。を。見。お。れ。小  
 陸。奥。の。外。が。濱。を。よ。ぶ。こ。ち。あ。り。か。れ。声。を。善。知。安。方  
 文字の跡さへおがつかくぞと。則友の。悲。しく。い。づ。り。も。さ。り  
 え。ぬ。そ。れ。も。り。も。不。陸。奥。小。下。り。妹。小。の。ひ。て。今。ま。つ。事。の。始。終。と。つ。の  
 さ。ふ。か。ら。り。そ。り。ふ。る。た。跡。と。い。ふ。べ。し。流。轉。の。機。土。小。残。さ。り。と。中。く  
 成。仏。し。ぬ。と。い。ひ。け。し。べ。安。方。ま。も。く。涙。を。お。り。の。さ。は。し。き。へ。某。が。殺。生  
 の。罪。科。あ。り。長。く。三。惡。道。を。脱。つ。と。さ。り。う。ら。う。浪。々。の。文。と。あ。り



善知卷之三

三



踏鳥沼太郎  
修行者とあり  
越中立山の  
地獄谷ありて  
善知安方の  
出霊小のひ  
かとの片袖を  
ことづかりて  
陸奥へ  
ありむく

善知卷之三

三

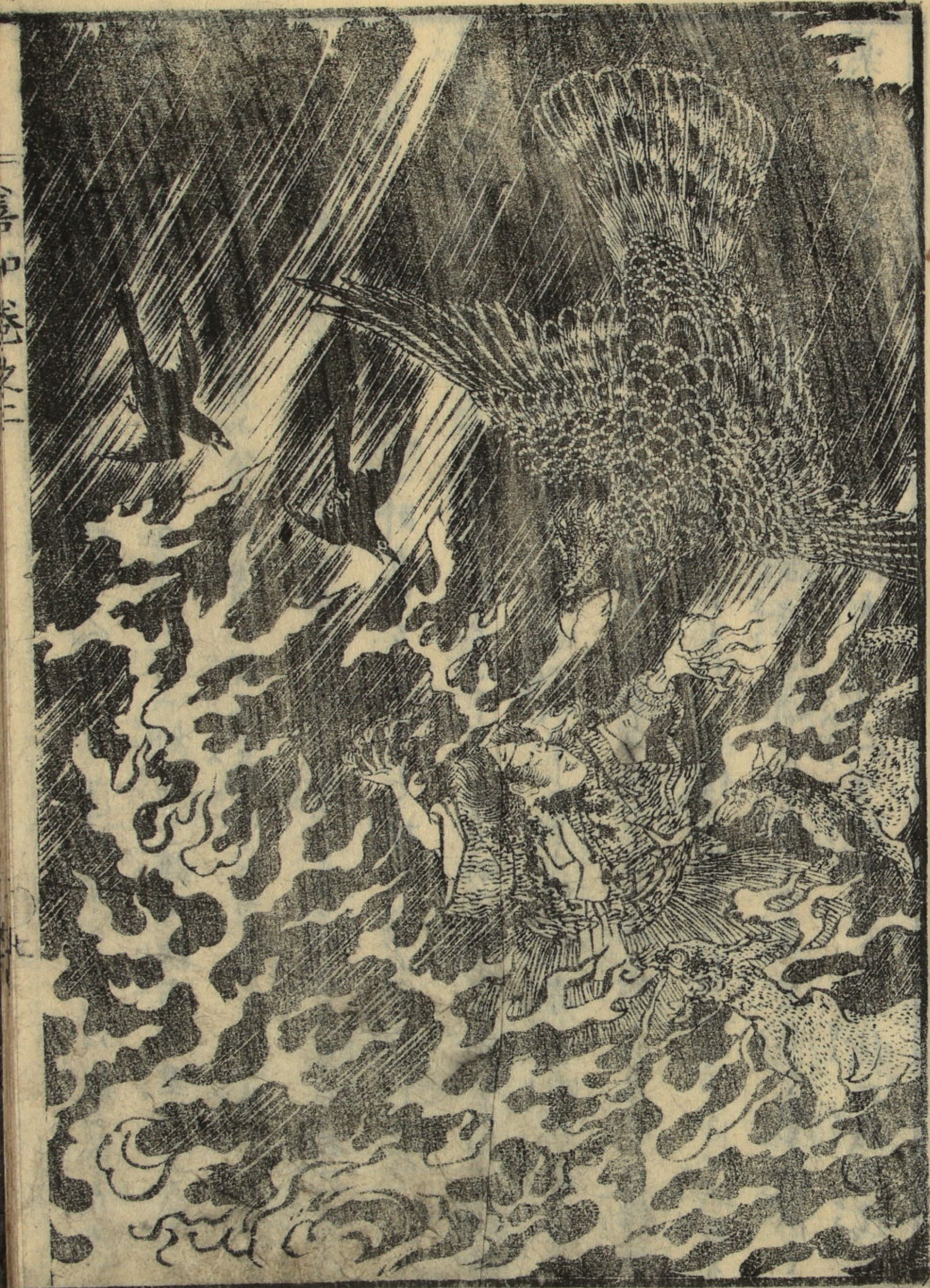


とりがまて苦む侍。るお悲しさいやまうわ。剣羽お身を斬る。鴛鴦  
次殺せし外やん。逃んとそれど立得ぬ。羽ねけ鳥の報る。安方が  
身をたたくのむ。鷹お追う雉子も。遙か過て表より。逃れがその  
狩場の吹雪。空におきり地を走る。鷹お責られた。のなこらうさう  
安方。やと死ひまらた苦む。たをけてなべや。則友どの。いさもや  
かそふまりて。悪獸化鳥の形も。とへを。雲や烟の立ちして。亡者の姿  
へ消失る。則友の夢の醒る。おひをほ。かそ身の袖をとり。おさあ。悲嘆  
の涙おむせける。やうく。心をとりまわ。極重悪人無他方便。唯称名字  
必生我界と説む。たふ紅蓮大紅蓮。ありとも。名号の智火。お  
解ね。焦熱大焦熱。ありとも。洪水お消ぬ。殊更彼を世不  
たふ。忠臣なれば。殺生の罪ありて。一度苦をうらるとも。うら

仏の憐れなる人。やと。鉦うちあじ念に。数遍こまて。まらう。同向  
。日室堂小宿して。翌日。禁下り。つひ。陸奥。赴き。う

狹布里 第六條

夫は。と。爰。又。奥州外。濱。残。安方。妻。錦木。一子。千代童  
。只。明暮。淋。打。夫の。取。困。を。ゆ。や。の。待。宅  
。は。二。年。と。ら。ゆ。と。も。取。来。る。影。も。と。一。言。の。音。信。と。な。け  
。は。く。業。ど。う。く。さ。め。ぐ。小。さ。ひ。と。う。つ。う。の。間。と。忘。し。が。く。涙。の  
。か。り。ひ。ま。と。あ。素。人。里。と。な。れ。て。濱。辺。小。と。ま。住。家。な。れ。誰。か。ら。こ。こ  
。者。も。さ。く。只。耳。小。あ。り。の。と。と。い。と。を。洗。入。波。の。音。松。小。こ。こ。ら。濱。風  
。寝。醒。お。雁。の。色。夜。と。な。ま。あ。す。浦。千。も。う。れ。ん。涙。の。種。ま。ら。ざ。ら  
。う。め。ふ。負。さ。あ。ら。か。ひ。さ。く。夫。お。別。て。ま。ら。し。ま。あ。ら。ひ。と。な。け



善知安方  
殺生の  
ひくふ  
よして  
化鳥  
悪獣  
とめらる





日頃の糧も尽朝夕の烟もくぐりて藻塩草あつて敷りのとまり  
 磯菜より外へ喰づさめのもあられ母の細布を織て狭布の里ふとび子  
 菅薦と編て十符里ふひさた。終小親子露命をつなぎて又夢と見る間  
 二年をこね時しも春のらりやひまりじが。夏こそのかさまりて。おろひ乃  
 つりれるあや。錦木偶病ふ困りめとまきど枕もあがて。苦くわくひね  
 け時千代童の終ふ十才ありけるぞ。さどふよりの武士の子をてかき込  
 小生見とるふ似ど。容まきさすして心くうくう。殊更孝心深き者あ  
 母の病苦と悲も。昏夜枕のそとらとさるれむして。看病しけるが。少の雜具  
 衣類もいふ代うて。今いふ薬とりといふべき。價もなれば。母のまじし眠れる  
 間ぬい濱ふゆきと。浦人ふ手を合。涙と流してあいの奥をむとれを代はして  
 薬とりあり。又ハ街ふふ知て。往來の旅人の袖ふとらり。一錢二錢の積と

うけ。これとためて母の好む食物をそのへいまで餘寒つよれ節あかしのれ  
 一重の襪縷をも牙ふつけど。赤裸ふて連日りの喰ねりもわり。夜も枕とつりて  
 眠らど。折く母の枕辺ふららばとありて。目をやとむるのそあり。そのひま  
 ふい濱辺ふ知て。垢離とらり。岩城山権現を拜と。おのれが命ふかへて母の状  
 氣を祈りたり。その千辛万苦をかりあふべ。誠是例まれある孝子なり。  
 さて一日錦木おろげある頭とあげ。瘦やそりたる手をのべて。十代童が額髪  
 うまきでつ。波をさしする回りをと見て。胸をさるりあるを堪忍してひらるひ  
 そらひ親容もきさうふて。年小似どいうく。人ふ猪と。小児まればお  
 まうでかさある火ふあひて。牙を苦くひ。果報つてまね生とぞや。母が命も  
 おろつらまけさ。いひあぐ夏のものどと。蓮蔭屏風とらうふや。腰と  
 たて。釣仏壇のちより。香の煙ふふとわりたる。位牌と二つとら出で。千代童が

前ふきまおまき世ふくめる夏のおわければ今まふいさむらじが我病さすも  
 伏氣のあつまることあへば語交さむらじこれを意言とあふべし。はいつの位牌の  
 安方どの父と。そちのあふ祖父さす。六郎公連どの事して忠臣無二の武士  
 しておにせし。主君将門君と諫てきたる承平二年腹切てくそふひ其節  
 より安方どの浪の才とありふふ又けいつの位牌のこれとちらぶあふ  
 祖父は母が父とあて。おは君おはへむひ鷺沼庄司光則どのとやせしが。去る  
 天慶三年二月十四日。下総や打死しむひね。惜まき。将門君朝敵とあり  
 むひぬれば。その従者の我くまで。日づけの才あて素姓をわう。くけいさ  
 めまじこ人ふりくさむらじ。将門君亡あひて後。親族も散ぐあまら。人の  
 兄上鷺沼太郎則友どのとも生けられして。びくおかりきやん風の便さふ  
 る。父くも母くもこま。屋くの武士まれば我く夫婦盛りあふ世ふ

とあことうぬば。お乳の人の物の者のとあま。れ人おしづせ。おやお讀  
 弓馬の誓古。ゆくとあま。おの不足あ。おひなさんお一重のつれ  
 一杯の糧さふ。どがき。時お生さのひ。不運の子とあふ。不便の  
 まさるぞや。それさへあふ安方どのへゆへ。それぞ我へおひ病さすけ  
 初さのあつまることひとら。んと尽さ。看病お瘦衰さ姿とえんべ目も  
 くれんもきゆるぞし。これおつけても安方どの。いづく。いさある所おかへを  
 せん。生死のわらも。おがつらほ。我の又さう死別とあま。んもさ  
 ら目さ。若さうら死さ。とあふ。安方どの。ゆへを。おひ病さす。おふ家  
 ころりて。母が亡跡さふてくれ。よひおく。これのこそ。よく。お見せておま  
 ころりて。打まりり。涙おむせびて。若さうら死さ。千代童あて。立ち。背と  
 あてり。泣きおて。いひる。今ま。氏もあ。只捕師の子との。あひ

つふお相ハ父上ハ武士の果めており〜。ちうんよ〜き夏の〜。本復〜。快氣〜。親子ぬ人袖〜。父とのあんな〜。ゆゑとあねゆ〜。薬と〜。湯と〜。あ抱あぞ。錦木〜。悲〜。夜〜。死〜。て卧〜。爰お又〜。浦〜。老熊〜。醫師〜。胸毛〜。胸毛〜。老熊〜。醫師〜。浦人〜。戯〜。よ〜。お老熊〜。醫師〜。錦木〜。容の〜。養廉〜。折と得て手〜。居〜。頃日病〜。救令の〜。恩と以て彼〜。心と〜。月老紅糸と

い〜。び〜。時節〜。毎日病床〜。脈〜。薬を〜。深切〜。詔〜。手〜。療〜。強本〜。ん底〜。計あり〜。只治薬師〜。服薬〜。お薬の〜。定業の〜。ねおや。快氣〜。秋の初〜。つ〜。全快〜。かくて日と追〜。力〜。か〜。あ〜。袖〜。夫の〜。心〜。恩〜。醫師〜。報〜。千代童〜。手〜。老熊〜。家〜。おん〜。危き命〜。沙恩の〜。詔〜。お〜。お〜。明朝〜。旅路〜。夫〜。夫〜。見〜。貧〜。夫



こそわんふまうせむぐぐど。これハちんいゝめをホまうりしまほしのこ機（こけ）なり  
 狭（せま）き志（こころ）ひてゆとつひて。手織（てあひ）の細布（こそとの）二反（ふたへ）蝦夷鷲（えぞの）の箭羽（やぶ）五十枚（いそまい）の酒  
 一陶（いつたう）ととて出（い）ければ。老熊（おおいくま）かゝりかゝるこゝろひよゝゝる心（こころ）づゝひ報（い）を  
 うゝるんハを踏（つ）むらうもあきめのととつひつ。後本（あきま）と見（み）やれば。髪（かみ）そりあげらる  
 病床（まわい）ひて見（み）る格別（くわくべつ）かうりくしくたさやうなれば。ちゝゝゝ見（み）られて  
 おがくも涎（よだん）と流（なが）し。ちゝゝゝり小情（こまじ）ありげある詞（ことば）をゆらひかの一（ひと）とりの酒  
 かのれがたくくの酒と合せ。後本（あきま）酌（しやく）をよめそひとり数盃（すうばい）ととつひつ。  
 碎（くだ）小（こ）あつて。かひて意慕（いんぼ）の涼（すず）きゆと告（つ）てつぎくたければ。後本（あきま）へ真（ま）ち  
 あつゝ。ちゝゝゝあしと笑（わら）かゝらうわ。いそぐゝゝゝ別（わか）と告（つ）てよゝりいでん  
 こそ老熊（おおいくま）が心（こころ）おへけ時（とき）をこまゝつぐれの日（ひ）うちひととる時（とき）のうんと  
 めつたらのうら後本（あきま）が襟（えり）をちゝゝゝとる男（おとこ）とるののかつひ出（い）してけぼふ

こそむぎや。も非（ひ）ともふまゝぐゝゝゝゝ或（ある）ハおどゝ或（ある）ハさうゝゝゝゝ  
 詞（ことば）と今（いま）ゝゝゝ。後本（あきま）ハ耳（みみ）あもふれど。只（ただ）ひまふらうひてのぐれいでんとを。  
 老熊（おおいくま）今（いま）いりらひべき詞（ことば）も尽（つ）てせんまゝぐゝゝゝ。無理（むり）無代（むだ）かねちとゝいければ。  
 千代童（ちよど）泣（な）き色（いろ）ふあり。ちゝゝゝ母人（はは）をいもととつひつ。のりの不陶（ふたう）をらうつて。  
 老熊（おおいくま）が刺（さ）しての頭（かぶ）と二（ふた）の二（ふた）の連打（つら）小打（こ）たれば。陶（たう）と二（ふた）の二（ふた）破（やぶ）れて。  
 残酒（ざんしゆ）老熊（おおいくま）が流（なが）す小流（こ）とゝうね。老熊（おおいくま）大（おほ）怒（ど）ゝりゝるひまふ後本（あきま）た  
 が胸（むね）とつぎゝゝあも炉火（いろり）のうらゝのけさゆふあれ入（い）。目（め）口（くち）不灰（ふはい）を入（い）て  
 ちゝゝゝ眼（まなこ）くゝゝゝりそのひまふ錦本（にしん）。千代童（ちよど）が手（て）をとりて逃（に）出（で）ん  
 こそゝゝゝ。老熊（おおいくま）いゝひて火性（かせい）短氣（たんき）あうゝゝゝ。おろゝ酒氣（しゆき）が帯（おび）ととて  
 まゝゝゝ憤（い）発（は）して。千代童（ちよど）と岸破（が）と踏倒（ふ）。後本（あきま）が襟（えり）をちゝゝゝ  
 引（ひ）りゝゝゝ胸（むね）のひぐゝゝゝ長（なが）ありとも。ちゝゝゝかゝゝゝやのこゝて

わりの人細布とさうして 椽さねの柱しらのついで。千代童ちよどとらうのひら  
提さげ来きる。きりりのとこぎで 赤あかもどりさほ。これも細布わたぬので高千たかち小千こちの  
らしむが。まづは奴やつと苦くるりめて 彼かれが心こころとらうんと。んふうまづん。  
わらふ散ちりやひも 鷲うしの羽はとさうして。流ながまると 酒さけひひ。千代童ちよどが  
総そう刃やいばかわりて 前まえを 竹たけ藪やぶ小縛こづつ。錦本にしんぼんのひひてひひる。はえよやく  
憂うれ同どうと見みまはじとちひて。詞ことばとそそふ 笑わら入いれど。うりさのわらう筒つつひ。  
目めもろや 暮くれ方がたとひひ。は西にしの人里ひとぢりとくまねる 住家すまあるれば 誰たれか  
事こともなし。殺ころさんも活いさんも 我わが心こころの候まじり。汝おんがが夫おとこ善知次ぜんぢの四年  
以前いぜん出て 飯いらがるはし。おりの小貪おん苦くるせまうて。汝おんがと捨すてお死し首くび  
縊くり身みと投なげて死ししる小疑おんぎあり。たると 唐天竺たうてんぢくと尋たづねるとも。此世このよ小  
かいてのらうべうらひ。夫死おとこしして 後のち夫おとこ小ちゆらひのあうひさう。いざ

我わが心こころ小ち志しさうふへうや。ちよどまづまや。返答へんたうせよといひくれれば 錦本にしんぼんは  
らうらうらおと。穢けがれやいまらうや。とて夫死おとこししる少ちもわれ女おんなさうりの両ふた  
夫おとこ小ちまこゆる道みちのんや。一令いちれいが借かきとて 女おんなのろと破やぶるべさる無益むいやくの詞ことば  
と費つひしゆらうといひて。且悲かつしみと 且怒かついかる。さうさうの 武ぶ士しの妻つまとて 詞ことば  
しひまを。千代童ちよどの竹藪たけやぶの裏うら小ちられれば。あまの蚊か酒さけ  
氣きと暮くれて 総そう刃やいば小ち集あり。百ひゃくさうら 千ちさうらの針はりとひて 刺さるがうら。蚊か  
らうも 瘦やせる身みらうならまら小腫おんがうりて。苦くるさ小堪かさんば 色いろさのひ  
てきたさけび。蚊かとかりんと身みとあせれば。くられば 細布わたぬの咽のどとらうて  
息いきつまら。いとさまやうもあ。倒たふてゐるま。起おきて 呼よびのあま 苦くるさや  
堪かんやとて。七轉しちてん八倒はつたう 苦痛くるうの体ていがわらう。命いのちも 短夜たんやの夜半よなはんとら  
う。更ふり小ちたり。老熊らうくまとて 顧かへてわくと 笑わらひ。童わらわよ 苦くるさうさうさものん。

さむらり堪ぐくもり母不得心せよといふ錦本。眼前小我子と蚊  
 の餌食とあしきもるびりさるや。今や心ふらさるる。某が妻とし。これ  
 まごの貧乏ふひさう。養味くはせ彩衣まきて一生と樂ふこととべし。  
 いうかゝと責らりり。錦本ハ千代童が苦む体とる。五臟六腑も悩  
 乱してさりちぎる。想とは。權つりりて彼が苦むと救人の心とさる。  
 妻が命惜くねど。眼前小千代童が苦痛の体とる。忍びぢねい  
 めも。心小あさるべし。とや。彼がいまわと解てとべいさるひとそ  
 がる。千代童色とくげは。中あう母人よ。かまを。彼が詞もさるひめ  
 る。我身とらりんとて。女の心と失ひぬ。よりの武士の子と生れま  
 非義非道の匹夫の乃小今と失ふ。一念うねども。ひ身の因果は。非  
 も。某は。小覺悟極とらひせ。子小とげまされ。錦本ハとる

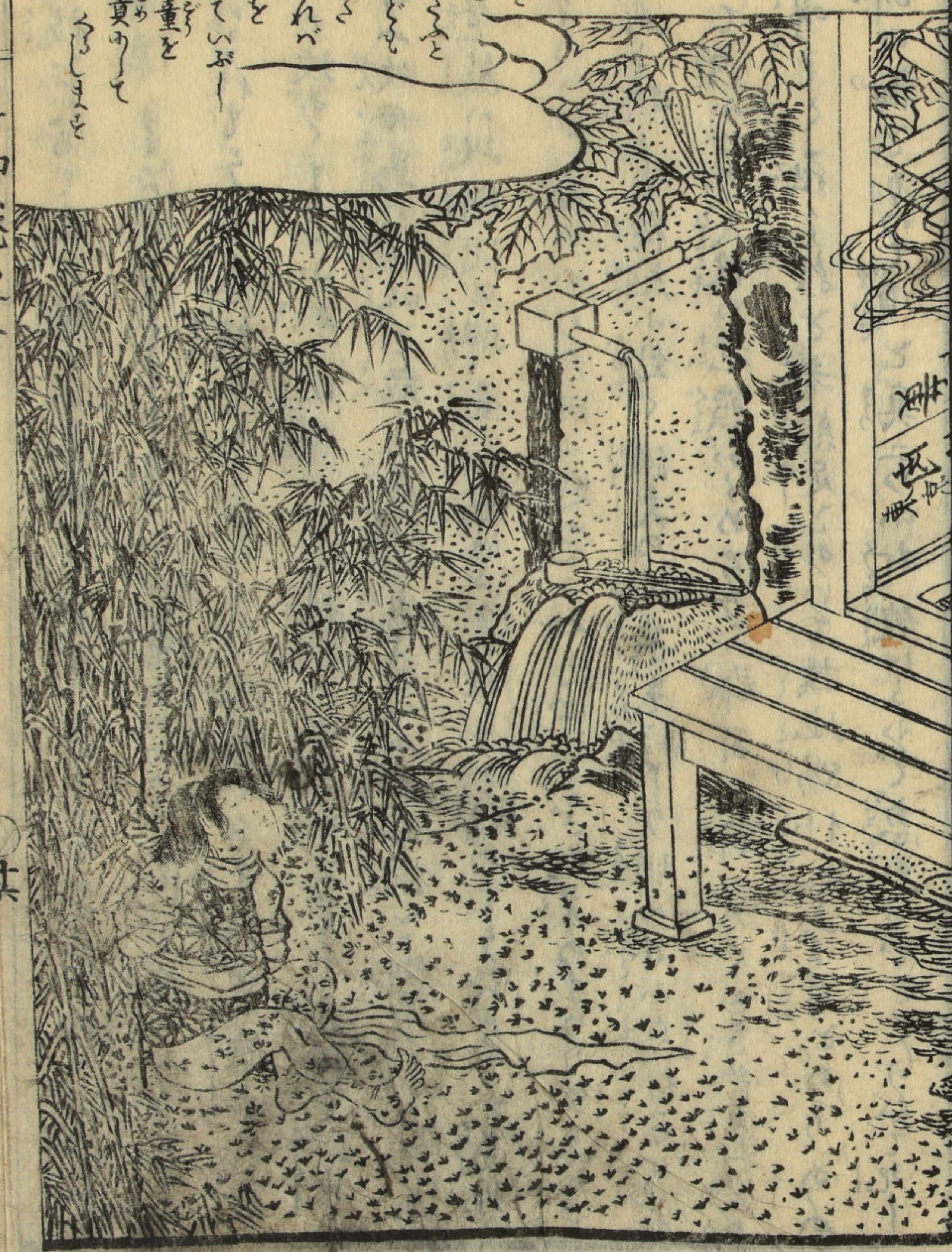
いとさるまじ。いゝもつひゆるぞや。我うれふまびうんといひ。そのこと救  
 ん乃の仍あり。其々るげある志と善知次どの。おぼせま。さぞな讚養  
 めあらん。つぐくおあさる。あつぢねども。と。炎の裏水の底なり。そ  
 活てさへ。おへさる。一念の誠とら。たづのめひ。そのこの成長。さる  
 一目見せて。表せんと。あひくし。うもあ。から毒蛇ふえ。ま。れて責殺  
 さる。悲心。さる。子あらん。子母も蚊のくりんと。二の蚊とさ  
 もいさ。親の心さ。小。目前。さる。苦痛とる。母が。と。ひと。推量。せし  
 病。小。も。身。ま。さ。る。か。る。う。き。あ。は。え。ま。た。り。の。と。あ。り。く。小。杖。氣。し。る  
 因果。さ。と。く。だ。た。と。し。く。悲。嘆。の。涙。お。い。せ。び。り。り。千。代。童。も。泣。き。お。て。目  
 来。流。く。あ。り。も。あ。ん。心。さ。る。は。さ。る。お。が。と。も。理。あ。れ。ど。某。の。あ。母。人。の  
 操。と。破。く。せ。何。面。目。小。さ。ら。う。ま。び。ま。り。づ。れ。の。あ。も。死。り。ま。き。今。あ。る。親。子

一、所死とありて。さきより武士の妻子どもいざだした名と残さずと  
 魂とをとりひかれ。錦木はあな悲し。そなたさきより見えぬうへへ  
 母もいづる命と惜むべき。親子手か手とをわけて死出三途と伴ん  
 つ小老熊。さきもあびく心まのむ。あな苦痛とををとも。うろく殺  
 せり。千代童が泣き色はあなまのうろてかたうされど。あなうろふに  
 蚊の音はいとをさきまづきさけり。おりの小唐土の廿四孝親お作りて蚊  
 かうらねるあも。さうふまきし孝子あり。老熊呵くと打笑はそく小死  
 そくを我療治ふて命と救おきわれ。殺をとも恨はのじ。医師の目物  
 のろふ似つね。殺も活も茶匙一本。毒茶の用意もあつ。さう  
 らぐ殺んそかきり心はそく。只涙と最愛して玉椿の八代代を  
 連とつんとこもさう。今か幸目々を。得心とまづとつがたつ

錦木と引立梯とよとてその上ふくじつ。蚊やりのゑとより出て。  
 秋の青葉と打く梯の下かきつて。團扇と以てめまき。さうい  
 責小せりける。黒烟錦木が目口鼻おひり。息つまりむせうつてまぶさ  
 出ど手足と動し。牙とりて苦む形勢。それや捺落の罪人が。焦熱大  
 焦熱の鉄火の裏おあらうて。身とやうふ異さ。不便とつあも愚らう  
 千代童のいやと。おのが苦痛の打忘母の苦と推量めつと叫びて蚊  
 柱のうら小倒は。錦木はこれま。やうひり。自言とくひさう。うら流  
 う紅の紅葉小あけ。秋の霜消て。うら成ふ。老熊は此体と見てのハて  
 うらめた薬と刻む。危丁とらりて。いまの布ときり。あな抱さる。や  
 うらこれと。大小カと。切も膽氣烈。さかめう。日未の七ひ。さ  
 うら。あな。花と散せ。残さ。あな。角とま。は。牛



醫師 老熊  
 心を  
 ねん  
 心ふらふ  
 蚊を  
 千代童を  
 蚊責りして  
 くらしむと



善知卷之三

廿七



善知卷之三

廿七

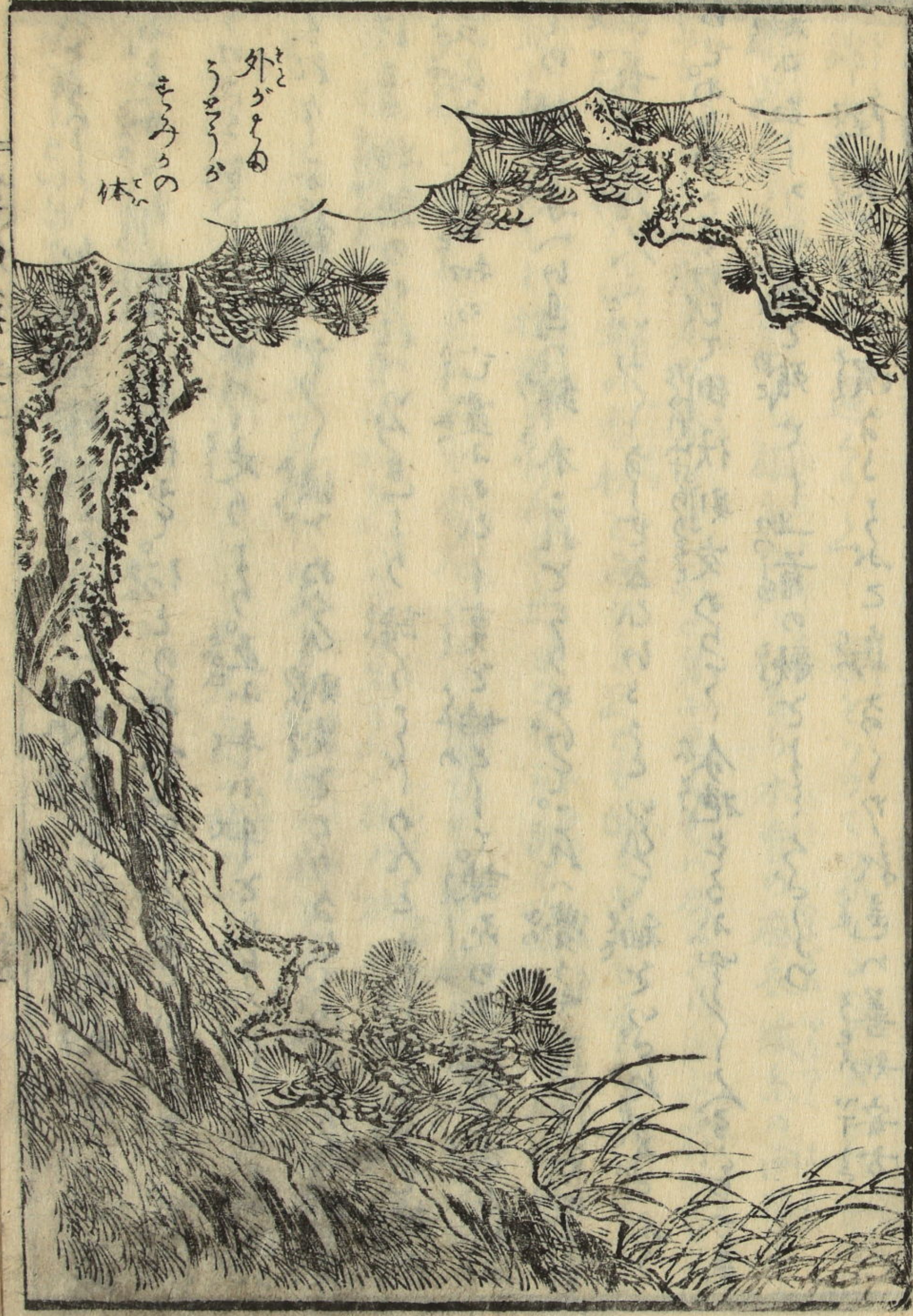
殺し、枝とたれて木と枯し、ふる異ありども、さあめれど、こころもむづぬ、一は活かすも  
我心の障あり、死せしも、まゝあり。千代童わいのふありしと、庭ふありと、こころ  
えれば、それとも、息絶え、死し、より、無慙や、千代童の、總身ふ集  
数万の蚊が、まゝ、血と吸、執り、うる、枸杞の實の、如ふありて、死得、江東小  
住りの、蚊母鳥の、嘔吐と、散し、塞北の、生し、と、蚊母樹と、倒せ、うと、名り、且  
たり。老熊ハ、此時、酒の、酔、全、醒、ける、が、め、れ、ら、と、殺せ、う、へ、と、こころ、尚、所、の  
住ひ、り、り、が、じ、秋、の、の、け、ぬ、間、ハ、逃、回、ら、や、と、心、と、ま、ま、め、才、の、ま、り、り、の、ま、度、と  
その、め、る、折、し、も、夜、細、小、走、く、漁夫の、何、某、先、程、より、垣の、外、小、立、様子、又、人  
を、けて、内、小、り、り、人、殺、の、老、熊、が、め、ら、り、と、郡司の、前、ハ、わ、く、り、り、賞、金、ハ、官  
人と、叫、び、死、し、と、老、熊、足、と、の、けて、撲、地、踢、仆、起、上、り、所、と、め、り、め、の、  
薬、研、の、輪、と、り、り、と、頂、と、真、二、つ、小、打、破、け、る、む、と、忽、め、ら、や、と、こころ、び、て、死、し、  
畢、ぬ、と、こころ、老、熊、ハ、い、づ、く、と、も、ま、く、逃、失、ら、り

十符の里

第七條

又、鷺沼、太郎、則、友、ハ、こころ、け、れ、た、乃、と、意、さ、て、陸、奥、ハ、下、り、中、津、輕、の、地、ハ、つ、れ  
外、濱、と、終、ぬ、と、こころ、此、彼、と、ま、め、ぐ、り、け、る、ハ、武、辺、ハ、總、て、荒、蕪、と、こころ、限、も  
ま、れ、ね、沙、原、より、一、根、の、草、木、も、生、い、で、と、素、人、家、二、軒、も、は、な、り、り、人、の、ま、ま、と  
ま、れ、ば、乃、の、業、内、と、こころ、も、の、い、へ、ど、殊、更、極、陰、の、地、さ、る、ゆ、え、あ、や、海、氣、勝  
騰、り、霧、の、こ、め、ら、る、如、く、東、西、と、辨、ぜ、ざ、れ、ば、大、小、の、た、り、げ、ひ、ぬ、け、地、の  
者、さ、へ、乃、ハ、迷、ふ、あ、や、所、ハ、目、當、の、柱、の、ま、め、と、え、つ、り、て、ま、び、こ、れ、と、便  
ふ、た、と、り、け、る、が、足、と、沙、水、流、く、踏、込、り、ゆ、ぐ、め、ん、の、ま、引、り、と、こころ、採、り、て  
乃、ハ、ぞ、ぞ、と、益、難、義、さ、り、折、し、北、風、列、々、吹、起、り、天、地、ハ、沙、と  
ま、ま、の、び、暗、く、冥、と、こころ、聞、究、道、と、ゆ、ぐ、び、し、わ、り、吹、倒、さ、る、べ、ら、り





外がらゆ  
うきうき  
まらみの  
休



鷲沼 太郎  
いり錦木  
のひん  
あま  
安方  
をう  
みびく

善矢



つれおちろとぞ 熟睡ゆるが。細引の色の耳進くづる驚死目も醒  
くわりのんかふんばつりえん石原小野てよへん一家も人もさく。前へ海  
る大海あて後へ森くも松原あり夢とさへ。よへの夏へうらふおぼえ  
めれ。扱へ亡人の霊あてわうけうと悲しふ堪さうり。日々さく  
のりめれ。浦人小つさそとつんとわらふ歩。めぐるお塩風ありれ  
て木ありともひる古松のりふ。一塊の新塚あり卒聲婆小記世文字と  
ふれ。善知次妻之霊天徳元年丁巳七月八日死とさつりけう。枕飯  
とそさう折敷の上。おの序袖のせそのりけう。扱へ人の霊へうらと  
しりや夫が慕一念け世ふままりて。権小姿とのい。我ふまへて詞と  
うりけう。七月八日死と記しめれ。昨夜へ一七日おめれ。昨夜あり  
不便の者の身のともやと打嘆。笈佛の扉とひらけ。なをさめ。釘打さ

南無山靈出離生死。頓證菩提と唱へ念佛まじく居る。おふ一個の  
童開如の水と汲野辺の花と折来。まじく塚小手向。く悲。まじく。  
則友は体とそて安方が物語。千代童さう一子ありとひ。は童小疑  
まじくとひて。誂とけ。それさうへ若千代童小め。どやとふ童つら  
のうも。某の千代童さう者あり。まじくのひ。修行者い。うさ人。て。  
某が。おん。知。み。の。や。と。ひ。の。で。果。し。と。な。り。と。と。逃。く。し。う。某。ハ。汝。ガ。母  
錦木が兄。鷺沼太郎。則友さう者あり。のまありてわ。一所不住の  
糸とや。り。ぬ。と。ひ。の。扱。へ。か。の。母。人。の。お。宿。小。さ。つ。伯。父。の。さ。あ。て。は。い  
ゆる。お。ひ。う。け。さ。る。對。面。ま。ま。と。て。互。小。又。涙。小。さ。さ。ら。れ。ぬ。さ。と。則。友。珍。本。が  
が。ま。う。り。し。子。細。と。さ。あ。ふ。千。代。童。ま。じ。く。母。童。病。と。り。げ。し。し。り。老。熊。小  
貴。られ。舌。と。く。ひ。て。死。し。と。ま。ま。で。残。さ。う。く。語。り。某。も。蚊。責。小。あ。ひ。て。氣。絶



みちのく  
そらぐもあは  
けーき



うさうまかご身の  
片袖鳥と化を  
あきま本が塚  
うらも霊魂  
鳥と化して  
まびいでらり  
空おのろ  
うさう鳥やを  
か鳥といふ  
これなり

二善天卷一

九

まゝと老熊死し〜とて捨て捨おき。逃去る跡めて余づよ〜して  
 蕪生浦人の情の管の母の死骸とけ所不埋ぬとつべ則友の安方の  
 諫死の始末。立山とてその霊のあひする夏。および昨夜錦木が魂のあひ  
 する夏と語り。かの片袖と見とれば。千代童とてつ〜く〜ん〜某々  
 しく〜父母の縁薄き者ありとて。悲歎ふむせび〜く倒り。かゝる折〜も  
 一陳の冷風颯々吹おろし。かの袖と虚空の巻のげが忽々〜鳥と化して  
 塚の上と死められ。頃て塚鳴動して二つふさ〜。うら〜り。同様なる鳥は  
 出二つの鳥翅とつ〜ねてま〜く〜悲鳴〜。枕飯とつ〜ふみ。つ〜ふ二羽  
 打連〜沖のや〜で死去けれ。善知鳥。安瀉鳥と〜。け外が濱不仕合ふ其  
 名残残せり。乃此鳥ありと〜。則友と〜と〜。傳言唐土の韓明夫婦  
 の精魂鴛鴦と化して塚の樹に住ると〜。安方夫婦が愛情これ〜と

かり〜と〜感涙袖とま〜り〜。初千代童と〜の事初〜と〜つ〜も。  
 武士の子と生じ。母の仇と報りてやめき。伯父のこの力と〜と〜と〜と  
 の。則友其志と感。〜と〜安方が見ふあり。〜と〜のひ〜と〜や。氣  
 づ〜と〜。〜と〜と〜の敵のや〜。我幸廻國修行の〜。ま〜  
 見〜と〜。敵の行方と〜。本懐と〜。〜と〜。つ〜ふ  
 相〜も〜。立去り。此後〜の鳥。天曇日雨降夜〜。一色〜の野  
 火所〜不燃て。教方の鳥の色と〜。〜と〜。〜と〜。〜と〜  
 その色涙と催〜と〜。〜と〜。後〜。浦人〜と〜。〜の塚不〜。の  
 石と建錦塚と名づけて。今〜。又〜。住〜。安瀉村と  
 稱す。今〜土人の語種〜。〜が忠貞孝心と賞〜。口碑〜。の  
 けれ〜や



○和漢三才圖會云索規濱津輕海邊の總名あり青森の近  
 所の濱小村あり安瀉とあづく云  
 ○因云養濃路小善知坂あり武藏川越領小善知坂今鳥頭あり  
 是等も安方が所縁の地也

善知傳卷之二終

